

ことばの問題

著者	加藤 静一
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 1: 21(1980)
発行年月日	1980-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022342

第三回研究発表会の発表要旨 (五四、一二、一二)

ことばの問題

信州大学学長 加藤 静 一

中国・樺太での生活体験の中から相互理解のために、ことばがどんなに大きな役割を占めているか、また、ことばの違いがどんなにそれを阻害しているかを知った。

英語を世界語などと称し、全世界に押しつけるのは言語における帝国主義とも言える。それに対しエスペラント語はだれにも学べる人口語であり、フランスアカデミーが「世紀の傑作」と称したのもむべなるかなである。

戦後エスペラント語を知り、その実践と普及に努力してきた。日本人は若い人のあいだにこれを学ぶ者がふえつつあり、世界の中でエスペラント語の多い国である。国際性豊かなエスペラント語をとおして、人類は相互理解を高めるべきときである。(馬瀬 記)